

平成 21 年 3 月 26 日現在

研究種目：基盤研究 (C)

研究期間：2006～2009

課題番号：18520242

研究課題名 (和文) ヨーロッパの公共文化空間の変遷ードイツ語圏の演劇表現と制度ー

研究課題名 (英文) The diversity of cultural system in Europe - analysis of theater-system and its representation in German-speaking countries

研究代表者

新野 守広 (NIINO MORIHIRO)

立教大学・異文化コミュニケーション学部・教授

研究者番号：00228131

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：文学・ヨーロッパ語系文学

キーワード：独文学

## 1. 研究計画の概要

ヨーロッパ諸国の公共文化制度の特色と現状をドイツ語圏の演劇表現と制度を中心に明らかにすることを目的とする。ヨーロッパ諸国では公的助成制度によって芸術、文学、演劇、音楽などの文化活動を育成し、市民の文化活動を守るとともに、様々な公共文化空間を市民に提供し、自由で豊かな文化生活を制度的に保障している。ドイツの文化予算の総額は、フランスやイタリアをはじめとする他のヨーロッパ諸国と比較すると、特に多いというわけではない。しかし文化予算に占める演劇への公的助成金の割合は、他のヨーロッパ諸国の文化予算における演劇の占める割合と比べて圧倒的に大きく、額も群を抜いている。その歴史的背景はなにか。公共文化空間としての演劇は、今日の経済のグローバル化のもとでどのような展望を持っているのか。演劇文化の振興を図る意義は、どこにあるのか。本研究ではこれらの問いを念頭に置きながらドイツ語圏の演劇表現と制度を調査し、公共文化空間としての演劇の有効性と問題点を明らかにしようと思う。

## 2. 研究の進捗状況

## (1) ドイツ国内のアーカイヴ調査

ベルリン芸術アカデミーの演劇アーカイヴ、およびベルリン自由大学演劇学研究所付属アーカイヴの調査を継続して行っている。

## (2) 演劇表現の調査

ドイツ語圏各地で地域の文化活動の中核を担っている公共劇場やアートセンターの活動の実態を調査し、実際の舞台やパンフレット等の公刊物、映像資料、統計資料などの収集を継続して行っている。さらに、ドイツ語

圏の演劇を代表する国際演劇祭「ベルリンの出会い」事務局を訪問し、その活動の実態と活動方針の変遷、文化政策上の位置づけの調査を継続的に続けている。また、公共劇場の活動の実態を知るためにベルリンを訪れ、その予算規模、スタッフの総数、実際に支出される人件費と製作費との割合、人脈、キャリア形成の在り方を具体的に調査している。

## (3) 基礎文献の入手と分析

ドイツ語圏の演劇を近代芸術として成り立たせている各種の制度に関する文献の収集をおこなうとともに、近代ヨーロッパ全体にわたる表現史、各ジャンルの芸術史に関する膨大な文献の入手を継続し、その整理、分析作業を行っている。

## (4) 研究成果の公表

(1)、(2)、(3)の調査と分析を通して得られた知見を、日本独文学会主催「アジア・ゲルマニスト会議」で学会発表するとともに、京都造形芸術大学舞台芸術研究センター発行「舞台芸術」、岩波書店発行「思想」、Theater der Zeit 社 (ドイツ) 発行「Theater der Zeit」などの学会誌、専門誌で公表している。

## 3. 現在までの達成度

②おおむね順調に進展している。

(理由)

ドイツ国内のアーカイヴ調査では、特にベルリン芸術アカデミーの演劇アーカイヴが所蔵する東ドイツ時代の舞台の貴重な記録映像と資料の閲覧を通して、冷戦期に演劇がどのような文化政策上の役割を担ったかが明らかになった。演劇表現の調査では、特にベルリン市内の公共劇場を数度訪問し、その活動の実態と課題が把握できるようになった。

#### 4. 今後の研究の推進方策

研究期間の最終年度である 2009 年度は研究代表者新野守広の長期海外研修と重なるため、ドイツ語圏のアーカイヴや公共劇場の調査を積極的に行う予定である。

#### 5. 代表的な研究成果

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計 9 件)

- ① 新野守広、溢れるドラマーメディア社会における演劇の姿、思想、査読無、第 995 号、2007 年、4-20 頁
- ② 新野守広、ルネ・ポレシュとポストドラマ演劇、舞台芸術、査読無、第 10 号、2006、127-135 頁
- ③ Morihiro Niino、Zwischen Gestern und Heute - Die Organisationsstrukturen des Theaters in einer KonsumgesellschaftIn , Theater der Zeit; Japan-Insert, Heft 9, 2006, S. 3-4.
- ④ 新野守広、豊かな社会の後に来る演劇 - 東京とベルリンの可能性、大航海、査読無、第 58 号、2006 年、130-135 頁

[学会発表] (計 2 件)

- ① Morihiro Niino、Zur Diskussion über die kulturelle Identität - Die Inszenierung von Junji KINOSHITAs „Ein Japaner namens Otto、アジア・ゲルマニスト会議、2008 年 8 月、金沢星稜大学